

JUN通信

高木 純の市政だより



吉野川市議 高木 純

ふるさと納税 昨年度は 全国から3100万円

今年は一倍のペースの寄付

昨年度に徳島県内の24市町村に寄せられた「ふるさと納税」は総額で8318万円、件数で4289件でした。そのうち吉野川市は金額、件数とも断トツで、寄付金額は3100万円で二番目の小松島市1012万円の三倍になっています。吉野川市は13年度、寄付者が返礼品をカタログで選ぶ方式を取り入れて以降、寄付が大幅に増えました。カタログには特産の梅以外に、川島のブドウや、デコポンな

ふるさと納税の返礼品のスイートコーン



どの果物、その他市の特産品が並んでいます。

「ふるさと納税」が全国的にブームになって今年、5月より寄付額が急速に伸び、4月～8月の五ヶ月間で2000万円の寄付が寄せられています。このペースで寄付が集まれば、昨年の二倍、6000万円になると予想されます。

5月～7月の返礼品はスイートコーンが大人気で、昨年の五倍から七倍の寄付が集まりました。

「ふるさと納税」昨年度との月別比較

	4月	5月	6月	7月	8月	小計
H26	2,000,000	950,000	730,000	1,240,000	1,345,951	6,265,951
H27	1,205,000	5,945,000	6,165,000	4,412,000	2,070,000	19,797,000
増減	-795,000	4,995,000	5,435,000	3,172,000	724,049	13,531,049
増減率	-39.8%	525.8%	744.5%	255.8%	53.8%	215.9%

犯罪から子供を守るために

市で行っている取り組みは

質問 寝屋川市で二人の子供が殺害される痛ましい事件がありました。自治体が全て責任を負うものではありませんが、犯罪から子供を守るために、どのような取り組みがされているのか説明してください。

答弁 全国的に子どもを狙った犯罪が多発しており、こうした犯罪から子どもを守るためには、保護者の理解と地域の協力、多くの大人の見守りと声かけが有効です。学校・家庭・地域が一体となった取組として、各小学校では「こどもの安心・安全対策会議」を年1回から2回開催し、防犯上の危険箇所の共通理解や大人の見守り活動等実情に応じた対策を進めています。また、長期休業中はPTAの健全育成パトロールや補導センターの合同補導が実施されています。市青少年育成補導センターでは、青少年の生活相談及び助言指導、街頭補導などの事業を行っています。例えば、月1回の夜間補導、また、長期休暇となる夏休み、冬休み前には、夜間外出禁止を含めた非行防止等のリーフレットを児童・生徒に配布し、非行をしない、

犯罪にまきこまれないよう注意喚起を行っています。また、市青少年育成市民会議では、各支部において地域性を生かした活動、例えば、地域パトロールによる安心・安全の確保や地域での交流会などを実施し、青少年の健全育成活動を行っています。夜間外出については、全国的な現状として、習い事の多様化や塾へ通う子どもの増加もあり、学校が抑制できなくなっており、さらに24時間営業の店舗もあることから、子どもたちが夜間に行動する場所も増えています。

寝屋川市であったような事件を防ぐには、深夜外出をさせない、また、夜間外出を発見した時には適切な指導をすること。そのためには、家族のみならず地域住民等の協力が重要ですが、深夜までの協力は望めず、警察による夜間巡視が必要と考えられます。現在、阿波吉野川警察署では、午後9時以降、2台のパトロールカーで市内を巡回しており、安心安全の確保、非行防止を図っていただいています。

